

創刊の辭

學長 今小路覺瑞

相愛學園が難波の地に女子教學の業を創めてから既に七十の星霜の歴史を綴つて來た。この間には幾多の起伏があり變遷を閲してきたのであるが、就中大戰の終末、戰災による校舎の焼失は學園の存廢に關する危機を招來した。然しながら不撓の精神は終に今日の復興を實現したのである。そしてそれと同時に舊時代の形骸的な學園の因襲を脱却して、新しき時代に即應した、學術研究の學府として甦つた。女子短期大學の創設がそれである。學園傳統の大乗佛教精神に基づく人格の陶冶をその教育理念としてゐることは學園の過去現在未來を貫く白道ではあるが、學術の研究を主體とした教育機構としての大學の設立は、學園の久しき歴史の上に一時期を劃した金字塔であると共に、學園の將來に對して大きな使命をもつものである。

この學園の劃期的な第一歩として、研究論集を刊行し、茲に研鑽の成果の一端を公にし、大方諸賢の批判を仰ぐ次第である。

昭和二十九年六月二十日